

## 【10】 修得すべき知識能力

### (1) 学部・学科

#### 現代人間学部

##### 人間科学科（身体環境共生学科）

##### 主要科目の特長と目標

###### 1. プロゼミ

高校までの「生徒」から、大学の「学生」になるためのさまざまな土台づくりを行います。学生として自身の関心を模索しながら、基本的な学習・研究スキルを身につけつつ、自主的に課題を設定して課題に取り組みます。スキル的一端として、本を読み、文章を書くという基礎訓練などを繰り返し、最終的にはプレゼンテーションの力も養成します。

###### 2. 身体環境共生キャリア論（専任教員オムニバス）

学科専任教員がオムニバス形式で、福祉共生と仕事、平和環境と仕事、食文化と仕事、スポーツと仕事、高齢社会と仕事、身体表現と仕事、環境と仕事、仕事と資格・検定試験について担当します。生活・環境・身体関連のさまざまなジャンルの職業についての理解を深めながら、本学科で学ぶ内容が将来の仕事や暮らしにどうつながっていくのか、具体的なイメージを持つことをねらいとします。

###### 3. 健康教育学

健康の概念は時代とともに移り変わり、その内容も多岐にわたりつつあります。科学技術の急激な進歩により、人間の心身に大きな変化が現れ始めています。それに対して、人間のからだの自然の回復、ヒトとしてのからだの源を見直そうという試みが行われています。単なる健康ブームに流されることなく、人間が本来具えている「育つ力」に依拠する教育学＝「からだの学」について考えます。

###### 4. 障害児運動支援学

障害児のための運動支援法について、実際の活動事例を紹介しながら、「ムーブメント教育・療法」を中心に基本的理論と実践方法について理解を深めます。教育や地域社会における支援者として、障害児を対象に身体運動を展開できるよう、アセスメントや遊具を活用した活動案を作成し、その内容について討議しながら知識と方法論の基礎を身につけます。

###### 5. フィールドワーク（地域環境）

都市の自然の中の動植物を観察することを通じて、自分の足下にある自然を自分の目と手足でとらえることのできる能力を身につけ、そこから鶴見川流域および多摩三浦丘陵という大きな生態系へとつなげて理解することをめざします。アカテガニの放仔の観察、大学キャンパス周辺の自然環境の定点観測、鶴見川沿いの観察ウォーキングなどを行います。